

高教組・冬の教研「厚くなった教科書を考える」分科会で

小出さん報告

「自由社出版中学校教科書の問題点」

2月5日、高教組の冬の教研集会が開かれました。そこで、小出先生が表記の報告をされました。注目すべき内容を含んでいますので、ここにその要点を採録します。

一つくる会系教科書批判の視点の構築に むけてー

(1) 侵略戦争の肯定、憲法制定過程の歪曲などなどの事実を歪曲している点に対して、事実を基に批判して行くことは当然のことである。かつて、同和教育で政治起源説が横行した時代があった。官制研究会ではこれが主流であり、それに異を唱えることは困難であった。そうした状況を事実をもって克服することができた。今や政治起源説を声高らかに唱える人は皆無の状況である。この教訓を引き出すことも肝要であると思う。

(2) 今後の社会に求められる学力は、つくる会の教科書のように愛国心を強調し、

ナショナリズムを高揚させ国民統合を図る学力ではない。東京大学教授佐藤学は、「現在の子どもが社会人となる2020年において、OECD加盟国で製造業に携わる労働者の比率は、労働人口の10%から2%に激減すると推定される。21世紀の社会は知識が高度化し複合化する社会であり、その知識が絶えず流動し、更新され発展する社会である。創造的思考、批判的思考、コミュニケーション能力、探究的な学びが求められる」と指摘している。こうした観点からつくる会教科書を分析すると、あまりにも偏狭な教材、曇った目で日本だけを特別視する教材では、グローバル社会に適応しないのではないか。

(3) 碓井先生が指摘する、日本は今後、成長社会から「成熟社会」へ移行していく。その成熟社会に新たな人権感覚をいかに育てるのかとの視点で、つくる会教科書を批判して行かなくてはならないと考える。

春の読者会のお知らせ

「人権21」は、この2月で216号発行の運びとなりました。読者のご意見やご希望が、どこまで反映されているか、気になるところです。読者の皆様の、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っています。

日時 5月27日(土) 13時30分～16時

会場 岡山民主会館2階会議室

報告 正保宏文氏(交渉中・若者論) 和田茂氏(交渉中・全般) 田中金一氏(脱原発)

会終了後、人権研究センターの総会・理事会開催予定です。